

欧州かわら版

欧州リートの買収劇

市場を賑わす買収ニュース

2018年3月19日、「ショッピングセンターの専門家」と自らを称する仏クレピエールが、同業の英ハマースンに買収案を提示したと発表しました。しかしながら、ハマースンに拒否されたため、結局クレピエールは4月13日に買収を断念しました。

買収のターゲットとなったハマースンは2017年12月に競合他社であった英イントゥ・プロパティーズ（以下、イントゥ）を約34億英ポンドで買収すると合意したばかりでした。

ところが、クレピエールがハマースンの買収断念を発表した5日後の4月18日、今度はハマースンがイントゥ買収案の支持を求めた株主宛の推奨を取り下げました。つまり、ハマースンの経営陣は、イントゥの買収は自社にとって最善策ではないと株主に表明したことになります。近く開かれる株主総会で承認されなければ、買収提案はなかったことになります。

背景にはオンライン通販の攻勢が・・・

小売店舗業界は、アマゾン・ドット・コムなどのオンライン通販の攻勢を受け、全体的に苦戦しています。2017年9月には米玩具販売大手のトイザらスが破産法を申請、3月には廃業するとのニュースが走りました。（ちなみに、日本のトイザらスは営業を続けます）

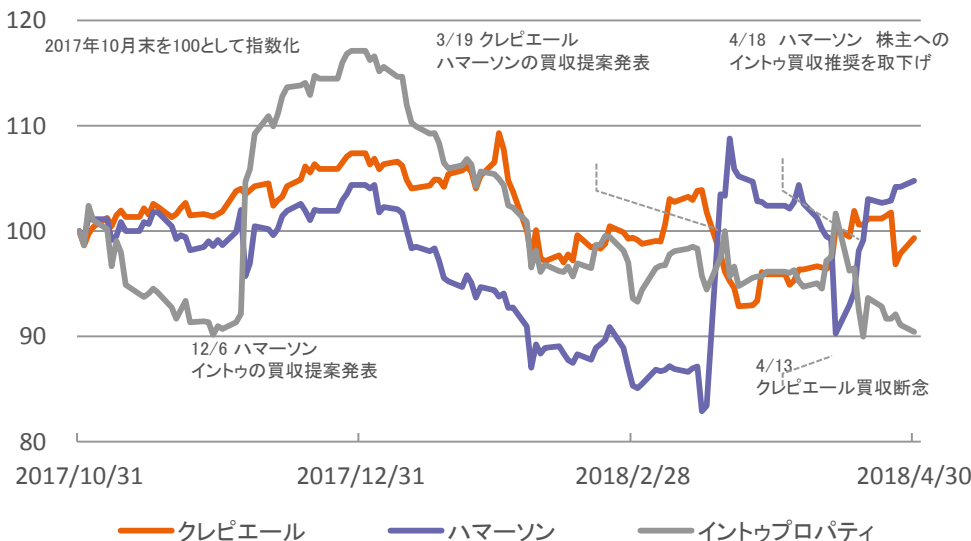
買収で規模の拡大と効率性の追求

ハマースンがイントゥを買収すれば英国最大級の商業不動産特化型のリートが誕生します。英国内の商業不動産に注力する2社が合併し、効率化を進め、業績を伸ばすことができるとの思惑がありました。

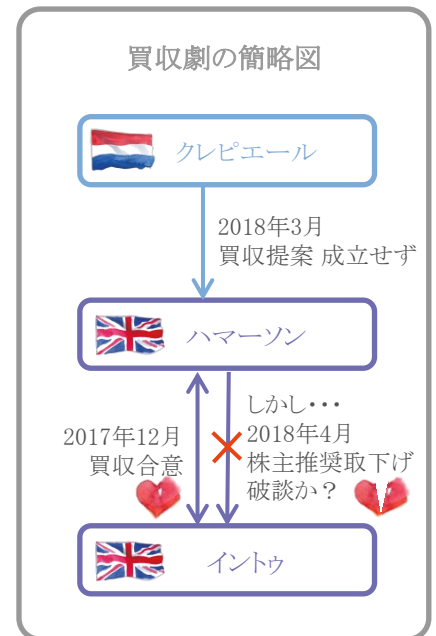
ショッピングセンターの将来がオンライン通販に脅かされているとの見方が優勢ですが、不動産業界では適正な価格で買えば、ショッピングセンターに健全な未来があると見込んでいるようです。

買収によって、規模の拡大と高い効率性の両者を手に入れることが成長の鍵になると考えられます。

欧州の商業不動産に特化したリート3社の株価の推移
(2017年10月末～2018年4月末)



買収劇の簡略図



(出所)クレピエール、ハマースンのWEBサイト、各種報道、ブルームバーグのデータ等の情報をもとにNNインベストメント・パートナーズ株式会社作成
上記の予測・見解等は作成時点のものであり、予告なしに変更されます。また、特定の有価証券等の売買、勧誘、推奨を意図したものではありません。

【本資料に関する留意事項】本資料は、NNインベストメント・パートナーズ株式会社が情報提供を目的として作成したご参考資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではなく、投資勧誘を目的とするものではありません。本資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。本資料に掲載された見解や予測は作成時における判断であり、予告なしに変更されることがあります。